

令和7年度

運営に関する計画

最終評価

大阪市立阪南小学校

令和7年度 学校経営方針

大阪市立阪南小学校

学校教育目標

豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成

めざす子ども像

よく考える子 心や体をきたえる子 考えを実行にうつす子

目指す学校の姿

「五方良し」(児童、保護者、地域、教職員、未来社会)

- 児童が「通いたい」と思う学校
- 保護者が「通わせたい」と思う学校
- 地域の方に「協力したい」と思ってもらえる学校
- 教職員が働きやすい学校
- よりよい未来を創る学校

目指す教育【学校経営の重点】

「授業を通して、自ら学び、自ら運動に親しむ児童を育てる」

具体化への手立て

○安全・安心な教育の推進

- ・気持ちの良いあいさつの飛び交う学校
- ・廊下の右側歩行が守られる学校
- ・まさかを想定した環境整備(児童の行動を都合よく想定しない)
- ・温かい学級づくり、違いを認め合う集団の育成(やさしさの伝わる言葉使い)
- ・授業で、学校行事で、児童の自己肯定感を育てる(認められる、褒められる経験の積み重ね)
- ・いじめ、問題行動は初期対応がすべて。迅速な報告に基づき組織的に対応する→丁寧な事実確認と公平な指導
- ・情報モラル教育、メディアリテラシー教育の充実

○未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・研究授業等による授業力の向上
- ・研究部員による示範授業、研修授業の実施
- ・教科横断的な学び(各教科の学習で身につけた学力を活用する学び)の充実 →地域学習、キャリア教育
- ・自主学習の励行
- ・授業後に、自分で調べてみたくなるような授業における仕掛けの工夫
- ・学習成果(自主学習)の発表の場の工夫
- ・本物との出会い、実体験の重視(校外学習、ゲストティーチャーの工夫)
- ・体育学習における「できた」の積み重ねによる運動に対する意欲の向上
- ・体力、運動能力を高める学校挙げての重点的な取り組み
- ・休み時間の確保(外遊びの奨励)

○学びを支える教育環境の充実

- ・教室の整理整頓
- ・ごみ、ほこりの落ちていない学校
- ・ICTの効果的な活用
- ・気兼ねなく定刻で帰ることができる学校
- ・校務分掌の細分化と負担の平準化
- ・教職員の仲が良い学校(やさしさの伝わる言葉遣い)

児童にとって教職員は大きな環境要因

教職員の笑顔が子どもを笑顔にします

教職員みんなで支え合ひましょう。

人間関係のストレスのない職場にしましょう。悪口厳禁。

教職員同士もやさしさの伝わる言葉遣いを心がけましょう。

大阪市立阪南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- いじめへの認識を深め、いじめの未然防止・早期発見の取り組みを進めることで、「いじめ(暴力をふくむ)は何かあってもしない」という意識を高めることができた。しかし、意識は高まっても、行動が伴っていない場合がある。
友達や自分の「よいところさがし」をこれまで数年間全校で取り組みを行っていることもあり、児童は友だちや自分の良いところを見つけ、言葉で伝えることが自然とできるようになっている。児童一人ひとりが自分をかけがえのない存在であることに気づける取り組みを今後も継続して取り組む必要がある。
- 不登校または不登校傾向な児童について実態把握を行い、教職員間で情報を共有しながら、スクールカウンセラーや子どもサポートネット等の連携しなら支援を行ってきた。家庭との連絡も定期的に取り合い、可能な限り児童に合わせて登校しやすい状況を整えるために繋がりを築き、全児童の居場所がある学校運営を目指していく。
- これまでの学力向上の取り組みにおいて、基礎・基本的な知識・技能の定着が図られてきている。今後は、わかる喜び、できる喜び感じられる授業を通して、「考える楽しさを感じられる授業」を目指して、友だちと共に対話しながら学ぶ楽しさを感じられる授業実践に取り組んでいく。
- 休憩時間の運動場の使用時間を学年でローテーションを組み、安全に配慮して場を設定し、使用できる用具・器具を整備し、児童の運動する機会を確保するよう継続して環境や時間を整える。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85.7%以上にする。【前年度実績 85.6%】
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87.3%以上にする。【前年度実績 87.2%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70.5%以上にする。【前年度実績 70.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事 ICT 活用が適さない日数を除く)【前年度実績 35.7%】
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を 56.4%にする。【前年度実績 43.3%】

※基準1 次のア及びイの基準を満たすこと

ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85.7%以上にする。【前年度実績85.6%】
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.3%以上にする。【前年度実績87.2%】

【学校園の年度目標】

- 令和7年度末の児童アンケートにおける「いじめ（暴力行為をふくむ）は何があってもしない」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。【前年度実績98.8%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70.5%以上にする。【前年度実績70.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事ICT活用が適さない日数を除く）【前年度実績35.7%】
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を56.4%にする。【前年度実績43.3%】

※基準1 次のア及びイの基準を満たすこと

ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・日頃の児童の言動、「心の天気」等から小さな変容を把握し、いじめの未然防止・早期発見に努めてきた結果、「いじめ（暴力行為をふくむ）は何があってもしない」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を98%と高い水準を維持することができた。また、「いじめられたことはありますか。」の項目についても昨年度より減少している。今後も継続して、未然防止と早期発見に努めるとともに、「温かい学級づくり、違いを認め合う集団育成」を目指して、取り組みを進めていく必要がある。
- ・様々な教育活動において、良好な人間関係を築く言葉遣い、思いやりや相手の立場に立って考える力の育成に努めてきた結果、年齢を重ねるにつれて、自己肯定感が低下することが顕著になった。今後も「よいところさがし」等の取り組みは継続し実践するとともに、言葉遣いや他者への配慮について全校で共通理解を図り、自己肯定感や他者肯定感が低い児童へ個別支援を充実させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較したところ、4年+0.09、5年+0.06、6年-0.10 となっているが、それぞれ全国平均は上回っている。これまで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着という目標に継続して取り組んだ成果が見られる。今後も児童の課題に関して、学年や校内で情報共有を図りながら、授業改善に努める。
- ・運動週間や体育授業の改善(ドキドキタイム等)の取り組みを通して、運動に関して好感を持ち、意欲的に取り組む児童が増加している結果として、シャトルランにおいて体力が向上につながっている。今後も継続して取り組み、さらに、運動に苦手意識をもつ児童も参加しやすい環境づくりを行う。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICT 環境を整え、児童が日常的に学習者用端末を活用できるように取り組んだ結果、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が62%となり、昨年度より大幅に向上した。今後も「心の天気」の入力を促進し、児童理解に努める。
- ・年間授業時数・週配当時間の見直し、会議の持ち方等の工夫により、放課後の時間確保と業務の効率化に取り組んだ結果、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が 75.86%と昨年度より大きく向上した。また、定時退勤日は18時までに退勤する教職員も年度後半には90%と高い水準となった。今後は、さらに校務分掌の細分化や生成 AI・ICT の活用を通して働きやすい職場環境づくりに努める。

大阪市立阪南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85.7%以上にする。【前年度実績 85.6%】</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87.3%以上にする。【前年度実績 87.2%】</p> <p>【学校園の年度目標】</p> <p>○令和7年度末の児童アンケートにおける「いじめ（暴力行為をふくむ）は何かあってもしない」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 95%以上にする。【前年度実績 98.8%】</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「いじめについて考える日」や年3回の「いじめアンケート」の実施等により、いじめへの認識を深め、いじめの未然防止・早期発見の取り組みを進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習もふくめ、いじめについて年3回以上、学級全体で学習する。 ・児童アンケートにおける「いじめ（暴力をふくむ）は何かあってもしない」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 95%以上に維持する。 ・いじめアンケートにおける「あなたは今のクラスになって、いじめられたことはありますか。」の項目について、「ある」と回答する児童の人数を前年度の1、2学期と比べて減少させる。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>様々な場面で友だちや自分の「よいところさがし」を行うとともに、優しさが伝わる言葉遣いをすることで、学級・学年等の仲間づくりを進めていく。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>児童アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」「友だちの気持ちを考えて優しい声かけができていますか。」の項目について、「あてはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 87.3%以上に維持する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標の達成状況について】</p> <p>「学校に行くのは楽しいと思いますか」</p> <p>目標指数 85.7%以上 ➡ 85.9%</p> <p>「自分には、よいところがあると思いますか」</p> <p>目標指数 87.3%以上 ➡ 86.8%</p> <p>「いじめ（暴力行為をふくむ）は何かあってもしない」</p> <p>目標指数 95%以上 ➡ 98%</p>	

【取組の進捗状況の結果と分析】

取組内容①

年3回のいじめアンケートや「いじめについて考える日」を計画的に実施することで、児童一人ひとりのいじめに対する認識を高めることができた。また、日頃の児童の言動や「心の天気」などの取り組みを通して小さな変化を丁寧に把握し、いじめの未然防止および早期発見につなげることができている。

いじめ事案が発生した際には、迅速かつ丁寧な対応を心がけ、教職員間での情報共有を徹底することで、校内の連携体制も着実に整ってきている。道徳や朝会、学級・学年での指導を継続的に行う中で、「いじめは絶対に許されない」という共通認識を育むことができ、その理解は学級・学校全体へと浸透してきていることが児童アンケートからもわかる。

いじめアンケートにおける「いじめられたことはありますか。」の項目でも前年度の143件を下回る114件であり指標を達成できている。

課題としては、いじめアンケートを計画的に実施しているものの、その効果を十分に実感できない場面も見られる。そのため、アンケートに頼るだけでなく、日常的な児童の見取りや丁寧な関わりを一層充実させることが求められる。

また、小さなトラブルや人間関係のもつれが深刻化する前に対応できるよう、継続的な見守りと早期対応をさらに徹底する必要がある。加えて、児童が不安や悩みを安心して相談できる環境づくりについても、引き続き体制の強化と工夫を重ねていくことが重要である。

取組内容②

「よいところさがし週間」やさまざまな教育活動の場面を通して、児童が自分や友だちのよさに気づき、互いに認め合う機会を大切にしてきた。帰りの会や児童会活動においても、友だちの良い行動を伝え合う取り組みを継続することで、前向きな人間関係づくりを進めている。

また、道徳科の学習や人権教育の充実を図り、思いやりや相手の立場に立って考える力の育成に努めてきた。「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」といった具体的な指導を通して、言葉遣いを意識し、相手を大切に作る態度も育ってきている。

年度目標では小学校経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」の項目で指標指数である87.3%を超えることができなかった。これは第3学年以上の児童を対象とした調査であり、全学年を対象とした児童アンケートでは「自分にはよいところがあると思いますか。」「友だちの気持ちを考えて優しい声かけができていますか。」のそれぞれの項目で指標の87.3%以上となる92%の結果が出ている。

さらに、教職員が率先して児童の良さを言葉にして伝えることを心がけた結果、児童の自己肯定感の向上につながるとともに、学級・学年全体の雰囲気もより温かいものとなっている。加えて、多文化理解や人権を尊重する学習を通して、互いを認め合い尊重する心の育成を図ることができた。

課題としては「よいところさがし」の取り組みは、児童同士が互いの良さに気づく有効な機会となっている一方で、その効果が一時的なものにとどまりやすい。

また、言葉遣いや他者への配慮の姿については、学級差や個人差が見られるため、全校的な共通理解のもとで、継続的かつ丁寧な指導を積み重ねていく必要がある。

そして、低学年から高学年になるにつれて自分のよいところを見つけられない児童が増えることも浮き彫りとなった。自己肯定感や他者肯定感が十分に育っていない児童に対しては、個々の状況に応じたきめ細かな支援を行い「大丈夫。」「気づいているよ。」「見ているよ。」と

いう言葉や表情、視線を子どもたちに対して送り続ける意識を教職員がもち、安心して自分らしさを発揮できる環境づくりを一層充実させていくことが求められる。

次年度への改善点

次年度は、これまで整えてきた校内連携体制を基盤としながら、いじめアンケートに加えて日常적인見取りや対話を一層充実させ、未然防止と早期発見の精度を高めていく。あわせて、小さなトラブルの段階から継続的に見守り、迅速に対応する体制をさらに徹底する。児童が安心して相談できる環境づくりを進め、相談しやすい雰囲気醸成にも努める。

また、「よいところさがし」などの取り組みを日常的教育活動に位置付け、継続的・計画的に実践することで、互いを認め合う風土を定着させる。言葉遣いや他者への配慮については全校で共通理解を図り、指導の積み重ねを大切にする。さらに、自己肯定感や他者肯定感が低い児童への個別支援を充実させ、すべての児童が安心して成長できる学校づくりを推進していく。

大阪市立阪南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70.5%以上にする。【前年度実績70.4%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科を中心に基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る。</p> <p>指標</p> <p>学期ごとの評価問題の平均正答率が70%以下の児童の総数の割合を、同一母集団において、前年度末より減少させる。</p>	C
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>児童が運動に親しむ機会や場の工夫に取り組むことで、運動に関する意識の向上を図る。</p> <p>指標</p> <p>令和7年度の児童アンケートにおける「運動や体を動かすことが好きだ」「休み時間は外で遊んでいる（遊ぼうと思っている）」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前期と同じ割合に維持、もしくは増加させる。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>全学年、体育科学習時に体力を高める運動を取り入れることで、児童の体力の向上を図る。</p> <p>指標</p> <p>4月と12月の年間2回、シャトルランの記録を測定する。学年平均値を1回目の記録よりも向上させる。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析				
【年度目標について】				
○経年調査算数平均正答率 対全国比				
4年 +0.09	5年 +0.06	6年 -0.10		
(R7.3年 1.08→1.17)	(R7.4年 1.18→1.24)	(R7.5年 1.16→1.06)		
○経年調査「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」				
3年～6年 73.0%（前年度実績70.4%）				
3年 78.6% 4年 78.8% 5年 66.1% 6年 68.3%				
①期末評価問題		R6 1学期	R6 2学期	R6 3学期
	国 語	15.2	12.3	11.1
	算 数	9.4	16.3	10.5
		R7 1学期	R7 2学期	R7 3学期
	国 語	16.9	12.9	
	算 数	14.4	17.8	

②令和7年度の児童アンケート

「運動や体を動かすことが好きだ」 前期 90.7%→後期 92.2% +1.5%
 「休み時間は外で遊んでいる（遊ぼうと思っている）」
 前期 76.3%→後期 84.1% +7.8%

③シャトルラン結果

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	4月	12月										
男	14.3	20.1	23.4	33.6	33.6	38.1	44.4	46.7	53	55.6	55.2	56.3
女	10.8	15.6	17.9	22.9	22.6	25	33.3	34.7	37.1	42	37.9	41.5

取組内容①

年度当初に掲げた「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」という目標に対して、取組は継続的に進めてきたものの、数値目標の達成には至らなかった。学期ごとの評価問題において、平均正答率 70%以下の児童の割合を前年度末より減少させることを目標としていたが、同一母集団においてその割合は増加する結果となった。

授業では、既習事項の振り返りを毎時間設定し、クイズ形式や確認問題を取り入れることで意欲的に復習に取り組めるよう工夫してきた。また、宿題やドリル、テストの誤答のやり直しを徹底し、再テストや自主学习ノートを活用するなど、基礎・基本の定着に向けた取組を継続してきた。タブレットドリル等のデジタル教材の活用により、児童が自分のペースで反復学習できる環境も整備してきたところである。

一方で、児童の実態が多様化する中、特に日本語での理解に時間を要する児童への支援については、個に応じた十分な手立てを講じきれない場面もあった。

また、主体的・対話的な学びを目指して一人で考える時間や話し合い活動を取り入れてきた。しかし、児童同士の伝え合いが一方通行になったり、一問一答にとどまったりする場面が見られるなど、考えをつなげて深める対話にまで高めることが課題として残った。

以上のことから、教員が多様な工夫を重ね、支援体制を整えてきたものの、児童の実態の変化に対して十分に対応しきれなかった点や、対話の質を高める授業改善が十分でなかった点が、目標未達成の要因であると考えられる。

取組内容②③

「日常的に体を動かす習慣の定着」と「運動に親しむ児童の育成」を目標に掲げ、体育科授業および学校全体での取組を推進してきた。

体育科では、毎時間の導入にドキドキタイムを設定し、心拍数が上がる運動を継続的に取り入れることで、授業全体の運動量を確保するとともに、意欲的に学習へ入る流れを確立することができた。準備運動の内容を工夫し、体力向上に直結する活動としたことも成果の一つである。体力テスト（シャトルラン等）において記録向上が見られる児童が多かったことから、継続的な実践の効果が具体的な数値としても表れていると分析できる。

また、「マット週間」「なわとび週間」「かけあし週間」など、学校全体で運動に親しむ機会を計画的に設けたことで、休み時間に外で体を動かす児童が増加するなど、日常生活における運動習慣の広がりが見られた。運動委員会を中心とした児童主体の取組や、教員による積極的な声かけと参加により、運動が苦手な児童も安心して参加できる雰囲気が醸成されたことは大きな成果である。全員参加型の活動を通して、仲間と励まし合いながら取り組む姿も多く見られ、体力面だけでなく、意欲や協働性の向上にもつながっている。

以上のことから、年度目標に対して着実な進捗が見られ、学校全体として健やかな体の育成に向けた基盤づくりが進んだと評価できる。

次年度への改善点

取組内容①

・単元で育てたい資質・能力を明確にし、「この時間で最も大切にしたい学びは何か」を焦点

化した授業づくりを徹底する。

- ・日本語での理解に時間を要する児童に対しては、視覚的支援やキーワードの明確化、やさしい日本語での説明、具体物や図の活用など、学習内容へのアクセスを保障する工夫を充実させる。
- ・学級担任だけで抱え込まず、学年や校内で情報共有を行い、組織的に支援する体制を整える。
- ・「なぜそう考えたのか」「他の考えとどこが同じでどこが違うか」といった思考をつなぐ発問を意識し、児童が比較・統合できる対話の場面を設定する。

取組内容②

- ・運動週間を年間計画に位置づけ、役割分担を明確にして児童主体の取組を継続する。
- ・短時間でも運動量を確保できる活動を工夫し、運動が苦手な児童も参加しやすい環境づくりを行う。

取組内容③

- ・ドキドキタイムの活動内容を学年で共有し、発達段階に応じた体力向上の取組を継続する。
- ・体力テストの結果を授業改善に生かし、年間を通した継続的な体力づくりを進める。

大阪市立阪南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間の授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事 ICT 活用が適さない日数を除く）【前年度実績 35.7%】</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を56.4%にする。【前年度実績 43.3%】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※基準1 次のア及びイの基準を満たすこと</p> <p>ア 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること</p> <p>イ 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること</p> </div>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 デジタル教科書（算数・英語）や、タブレットドリルなどのICTの環境を整え、児童が学習者用端末を活用しやすくとともに、児童が入力した心の天気を日々の心情の変容等の児童理解に活かせるようにする。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 学習者用端末の使用状況調査における、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を年間授業日の50%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 会議のもち方（回数、方法、内容）を工夫すること、年間授業時数の適正化を図り、週配当時間の見直しを行うことで放課後の時間の確保に努める。通知表の所見欄の内容や指導要録の表現を見直すことなどさらなる業務の精選に取り組むとともに校務分掌の細分化や分担方法の工夫を図り働き方改革を推進していく。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 定時退勤日は18時までに退勤する人を職員全体の90%以上にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標について】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」基準1 目標56.4%以上→75.86%</p> <p>① 端末使用状況 目標50%以上→62%（1月末時点）</p> <p>② 定時退勤日 目標90%以上→90%（10月～1月平均）</p> <p>【取り組みの進捗状況について】</p> <p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 デジタル教科書やタブレットドリル、Canva、Teams、ClassroomなどのICT環境を整備し、児童が学習者用端末を日常的に使う体制を構築した。授業や宿題、長期休業の際の課題に活用することで、動画教材の活用やデジタルドリルやタイピング、九九ソフトなどのデジタル教材を使用して繰り返し学習することにより、児童は自分のペースで意欲的に学ぶ姿が見られ、学習理解の向上につながった。</p>	

また、「心の天気」を毎日入力・確認する取組を継続し、児童の心情の変化を把握することで、問題の早期発見を行うことができた。また、様々な教職員が「心の天気」をチェックすることでチーム学校として声かけを行ったり指導を行ったりすることができた。また、児童のコメント機能を活用することで学習の振り返りに活かすことや児童の一人ひとりの思いを受け取るなど、コミュニケーションツールとしても有効であった。一方で、入力の習慣化が難しい児童への継続的な声かけや、入力を行うための時間の工夫などの課題も明らかになった。

取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

全学年5時間授業日の有効活用、年間授業時数および週配当時間の見直し、会議の回数・方法・内容の精選などにより、放課後の時間確保と業務の効率化を進めることができた。水曜日に会議設定を行い実施時間を見直すことで退勤時間までに時間を作ることができ、教材研究や校務分掌に充てる時間が生まれた。また、そこに定時退勤日を設定することで勤務時間に関する基準も概ね達成できた。

また、通知表所見欄や各種記録の表現の見直し、校務分掌の細分化、スクールサポートスタッフへの業務依頼、留守番電話・ミマモルメ・Classroom・生成AIなどICTの活用により、事務作業や情報共有の負担軽減が図られた。

今後の改善点

取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

今後も「心の天気」を活用し、児童理解や心情把握を行っていく。全クラス活用することができるように学年のICT担当中心に進捗状況を確認したり使い方について共通理解する場を設けたりすることによって学校全体の活用率の向上を図っていきたい。また、児童の端末の使用方法的ルールや情報リテラシーの指導、家庭と連携した情報モラル指導についても教職員間で合意形成を行い、話し合いを行いながらそれぞれの計画について取り組みを進めていく。

取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

今後も会議運営の方法や設定時間について見直しを進めていく。また、校務分掌の内容をさらに細分化し一人ひとりの仕事量の平準化を進めることで、分担体制の改善を行っていく。また、校内研修を通して教職員がICTや生成AIをさらに活用できるよう努め子どもと向き合う時間をつくりだし教育活動の一層の充実を図る。